

市と自衛隊の連携強化を図り 大規模災害に対する万全な備えを

国内で頻発する大規模災害に備え、市民の安心・安全のために日頃から連携を強化している市と陸上自衛隊古河駐屯地。地域防災のあり方について、針谷市長と古河駐屯地司令の豊田真さんによる対談が行われました。進行は、市民の立場から自衛隊に対して提言を行う東部方面隊オピニオンリーダー会会長の長塚孝之さんです。



対談

針谷 市長

陸上自衛隊古河駐屯地司令

豊田 真さん

長塚（進行）…日頃より市民の安心・安全のために、ご尽力いただきありがとうございます。今日は、市民にとって不安要素の一つである、河川の氾濫について意見を交わしていただき、さらなる地域防災への理解と迅速な対応につなげていきたいと考えています。

市長…陸上自衛隊古河駐屯地が身近にあることは、私たち古河市民にとって何よりの安心となっています。事実、近隣で災害があった時も、市や県を越えて迅速に救命活動をされてきましたね。

水害は、地震や火災などの災害と比べると、準備や避難の時間があります。だからこそ、市民が安全に避難できるよう、災害対策本部の準備段階から自衛隊や消防署などの担当者より、意見や助言をいただけるのは非常に心強く感じています。

豊田…古河駐屯地は創立以来66年間、市民の皆さんのご理解とご協力を受けながら、活動をしてまいりました。

特に、針谷市長を始め歴代の古河市長には、古河駐屯地協力会会長として、駐屯地の活動を全面的に支えていただいています。まずは、このことに深く感謝を申し上げるとともに、今後も変わらぬご理解とご協力

をお願いします。

古河に駐屯する部隊の主力は施設科部隊であり、この特性から、創立以来、茨城県はもとより関東・甲信越、さらに国内全域における災害派遣を実施してまいりました。近いところでは、昨年の台風15号・19号や一昨年の西日本豪雨、北海道胆振東部地震、茨城県内においては平成27年9月の常総市における災害派遣などがあります。

地球温暖化の影響からか、災害が多発する現在、防衛省・自衛隊は、国防のみならず、災害にも備えておく必要があります。

市長…自衛隊のそのような活動が報道されることや、地元で駐屯地があることが、私たち古河市民の安心につながっているのです。

災害時に私たちのまちを守る手段の一つとして、消防の対応が挙げられます。中田地区にある古河消防署を軸に活動していますが、河川に氾濫の危険が迫ったときは、三和分署へ車両などを移動して適切に対応できるような計画をしています。昨年の台風19号の際は、幸いにも大事に至りませんでした。万が一に備え計画どおりの対応をしました。

豊田…そのように伺っています。災害への対応は、自治体の考え方が基本になります。自衛隊としても、自治体が災害対策本部等を設置する初期の段階から、緊密に連携しなければならぬと考えています。

また、災害発生時にとどまらず、日頃から相互の連携を深める努力も重要です。このため、災害担当者の会議や自治体が実施する防災訓練等にも積極的に参加しています。



利根川・渡良瀬川に接した古河市は、治水を重ねてきた歴史的経緯からも、将来にわたって水害への備えは重要です。また、首都直下地震も予測されていることから、地震への備えも必要です。

さらに、全国各地では、鳥インフルエンザ・豚熱等への災害派遣も行われています。

駐屯地は、これからも市と協力しながら、さまざまな危機に迅速に対応できるよう、即応態勢の堅持等に万全を期していきたいと考えています。

市長…豊田司令にそのように言っていたけると非常に心強いです。近

- 進行 -



長塚孝之氏(原町・60歳)

1都10県にまたがる
陸上自衛隊東部方面隊
オピニオンリーダー会会長

長塚…今回の対談を通じて改めて感じたことは、災害はいつ起こるか分からないということです。だからこそ「いつ」「どこに避難するのか」をハザードマップで再確認するなど、日頃から災害に備えたいと思います。本日は貴重なお時間をありがとうございました。